

神奈川県教育史（戦後編）の編纂に関連する令和7年度の取組や情報をお伝えします。

1 六十年前の「資料目録」送付文・・・今に受け継がれる教育資料収集

昭和40(1965)年3月、神奈川県立教育センター調査研究部が作成した『神奈川県教育史資料目録Ⅰ』を関係機関に送付した際の手書き文書が残っています。同年4月20日に所長名で発出され、『神奈川県教育史』（戦前編）編纂の趣旨が次のように記されています。（下線加筆）

（前略）第一に、本県教育が歩んで今日にいたった長い道筋をきめ細かに検討することによって、本県が将来進むべき方向に欠くべからざる指標をうること。つぎに本県教育が発展するにあたって、他地域ではうかがわれぬ独自の姿を^{てきしよつ}剔出すことにより、教育施策を決定する際の重要な参考資料を提供すること。さらにこの事業を通して県民に本県教育の重要性を認識していただくことなどです。この事業の第一段階として昨39年度、当教育センターで収集し、調査した資料目録を作成しましたので送付いたします。

（前略）教育史編さんに役立つような資料が発見されました場合、資料件名、所在、内容等の情報を提供して下さるようお願い申し上げます。さらに関係資料など、お手持ちでしたら、ご恵送いただければ幸甚の至りと存じます。（後略）

教育史や自治体史の編纂には、裏付けとなる膨大な資料が必要不可欠です。そのため、この『神奈川県教育史』（戦前編）の刊行に先立ち、県内外の個人の資料所蔵者、学校等の協力を得て、多くの教育資料を調査、収集しました。この目録には900件を超える収集資料の名称が掲載され、以後、「目録Ⅱ～Ⅳ」が、昭和42(1967)年までに計4冊作成されたのです。

『神奈川県教育史』（戦前編）の編纂は、学制発布百年の記念事業として、昭和39(1964)年、県立教育センター設立と同時に事業が始まり、4年間に及ぶ資料収集を経て、昭和44(1969)年に編集を開始、昭和45(1970)年度から54(1979)年度にかけて資料編4巻、通史編2巻が刊行されました。

現在、センターでは、続編ともいふべき『神奈川県教育史1945～1972』を編纂しており、上記の三つの趣旨は根底で継承しつつも、県民はもちろん一般の方が地域史や学校史等を調べる際、また各校種における教職員が教材研究を行う際の参考となり、さらに児童・生徒等の学習や研究等に活用できるものとする、などを編纂の基本方針としています。

そして、現在も各市町村教育委員会、教育研究所、学校の刊行物等の資料を定期的に収集しており、それらは、「神奈川の教育の今」を知るためだけでなく、今後の教育史編纂の一次資料として大切に保管されています。神奈川の教育の歩みを紐解く教育史の研究、そしてその根拠となる資料収集は、六十年後も途絶えることなく続いているのです。



『神奈川県教育史』（戦前編）

2 湘南高等学校歴史館を訪ねて

『学校資料の未来 地域資料としての保存と活用』（地方史研究協議会編、2019年）は、少子化に伴う各地の学校の統廃合が進み学校資料の散逸が危惧されること、統廃合に直面していなくとも「資料の管理体制が十分に確立できない」という現状を指摘しています。今年度、さまざまな教育（学校）資料保存の実践例を調査し、それらの活用について考えてみることにしました。

旧制中等学校をルーツとするいくつかの県立高校は、学校資料（校史資料）を特別な場所に展示・保管しており、それらの中でも湘南高等学校歴史館は特に充実した施設です。

『教育アーカイブ ふじさわ 10号』（藤沢市教育文化センター、2014年）には「湘南高校、学校内に『歴史館』を開設」と題する特集記事が組まれています。

同校の校舎は戦火を免れたものの、昭和33(1958)年の火災で蓄積してきた校史資料の多くを焼失したため、同46(1971)年に五〇周年記念誌を編纂する際には、旧職員や卒業生が個人的に保管していた資料を蒐集しなければならず、「作業は困難を極めた」ということです。

その後は同窓会を中心に資料の寄贈と整理が続けられましたが、「今度は保管場所に苦勞」し、やがて学校内に資料展示施設を作る動きにつながりました。

さまざまな障壁を乗り越え、平成21(2009)年に「まなびや基金」を適用した県の事業として「一年余りで一億円を超える寄付を集めることに成功」し、同24(2012)年2月、「規模、内容とも高等学校としては稀に見る校史資料館」として開館するに至りました。

今年度4月、教育史担当所員が同館を訪問しました。館内は、「年表コーナー」、「教科書コーナー」、「校史紹介ビデオ」、ノーベル化学賞受賞者のOBである「根岸英一さんコーナー」や、蹴球部と野球部の「全国優勝コーナー」、「校歌コーナー」、「赤木初代校長コーナー」など、まさに本格的な資料館・博物館といえる展示の数々に圧倒されました。

3 県内市町村の教育史編纂状況 ～「神奈川県教育研究所連盟」加盟機関への調査

昭和26(1951)年10月、神奈川県・横浜市・横須賀市・川崎市・小田原市・藤沢市・鎌倉市の7教育研究所が連絡協議会を結成したのが「神奈川県教育研究所連盟」の始まりです。

現在は、当センターをはじめ、市町村の教育研究所又はこれに準ずる34の機関が加盟し、「連絡連携を密にし、調査研究等の進展を図ることにより、神奈川県教育の振興に寄与する」ことを目的としています。

今年度6月、加盟機関の所属自治体における教育史編纂状況などの調査を行い、その回答を集計しました。

(1) 教育史を刊行したことがある自治体 ※加盟機関一覧順

- ①横浜市 ②川崎市 ③相模原市 ④横須賀市 ⑤平塚市 ⑥鎌倉市 ⑦藤沢市 ⑧小田原市
⑨茅ヶ崎市 ⑩大和市 ⑪座間市 ⑫海老名市 ⑬綾瀬市 ⑭伊勢原市
⑮寒川町 ⑯大井町 ⑰箱根町

(2) 今後刊行を予定している自治体

- ①鎌倉市 ※令和8年3月刊行 ②平塚市 ③大和市 ④座間市 ⑤綾瀬市

(3) 学校や研修における教育史の活用

①座間市

授業：市内小中学校全校において道徳の時間で「郷土の先人に学ぶ」(副読本)を使用し、座間の発展に尽くした先人の生き方を学ぶことで、地域に誇りを持ちここで育つ喜びを感じる心を培う。

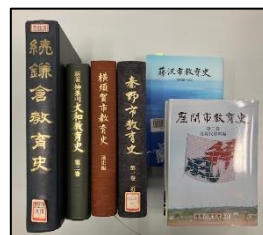
研修：毎年、小中学校の教職員及び市民を対象に教育教養研修講座を実施。(令和6年度は「座間市幼年会」について)

②藤沢市教育文化センター

2017年度まで、年に1回程度教育史を教材にした授業を、刊行誌「ふじさわ教育」にて紹介していた。藤沢市ゆかりの教育者や史跡を扱った研修講座を開催したことがある。

③寒川町教育委員会

小・中学校の初任者研修で、管内で実践されてきた教育への理解を進めるために用いている。



改めて県内市町村の教育史がいつ、どのような形で刊行されてきたか把握することができました。

また、「資料の保管場所の確保が課題」、「編纂方法等を熟知している職員が少なく、手探り状態での作業が続いた。資料の散逸が著しい中、所管する学校の周年記念誌などを参照した」、「文書や保存については、場所にも限りがあり、これからも増え続ける教育史に係る資料についての保管は、課題である」などのコメントももらいました。

今後、刊行を予定している自治体と連携し情報交換していきたいと思います。

4 小田原高等学校「中等教育資料館」を訪ねて

今年度二回目の校史資料展示施設訪問は、旧制の神奈川県立第二中学校時代からの貴重な資料を有する、県立小田原高等学校の「中等教育資料館」です。6月に、所員が現地を訪れ、同校の同窓会員で旧職員でもある校史ガイドの方にお話を伺いました。

平成16(2004)年、創立百周年記念事業として、南館3階に校史展示室を開設、その後平成28(2016)年、校史展示室の隣に教材展示室を、令和元(2019)年、その隣に図書展示室を開設しました。

令和2(2020)年、創立百二十周年を記念し、3つの展示室を、相互に関連し一つの全体を形作る複合施設として「小田原高校中等教育史料館」と命名しました。

校史展示室(A)には、創立前史から平成までの通史展示やテーマ展示(部活動・国際交流・卒業生の活躍・箱根駅伝創設者など)のほか、貴重な文化遺産も常設展示されています。教材展示室(B)には、教科書や生徒のノート、剥製などの生物標本、鉱物標本など、再編統合した小田原城内高等学校の前身である小田原高等女学校の史料も数多く展示されています。

明治大正期の教材を保存しているのは県下でも稀であり、剥製などの保存について県立生命の星・地球博物館(小田原市入生田)の学芸員に助言を仰いでいるそうです。

図書展示室(C)には、教師の教授用参考書や生徒の学習図書であった和漢書・洋装本2万冊以上が展示されています。また、本校関係者の著作や論文等を集めた「櫛の葉文庫」も特徴的な展示です。

これら三つの展示室は学校教育を遂行するための施設として、平成26(2014)年3月、学校と同窓会が「校史展示室等の管理運営業務基本協定書」を締結し、学校がその管理運営業務を同窓会に委託、学校説明会や文化祭で公開するほか、新入生オリエンテーションでは全ての新入生が来館するとともに、日本史の授業や定時制の総合的な探究の時間で活用されたこともあるそうです。

さらに、大量の史料が収蔵庫に収められているのは火災や戦災によって史料を失うことがなかったことが大きな要因であり、他校に見られない特長と言えます。



5 戦後80年(昭和100年)企画展

戦後80年の節目にあたり、『神奈川県教育史1945~1972 資料編』に掲載した資料のほか、学校資料や研究成果等を展示することにより教育史の意義を周知し、授業実践への活用等の促進を図るという趣旨の下、8月20日の総合教育センター「ティーチャーズデイ」の日から、5階多目的室と教育図書室にて展示を行いました。

日ごろから、5階の多目的室では、近世の版本から1960年代ごろまでの教科書の歴史をたどることができるように常設展示しています。



墨塗り教科書などの展示

今回の、特に戦後すぐの「墨塗り教科書」の実物を『神奈川県教育史1945~1972 資料編(上)』の第一部第三章に収録した「教科書修正要項」(169~204ページ)の拡大版とともに展示し、来場者に文字資料との関係を捉えてもらえるよう工夫しました。

また、センターが所蔵する教育映像資料、「神奈川県教育史~終戦前後の小学校教育~」と「同~新制中学校発足の

ころ」を、同じように『神奈川県教育史1945~1972 資料編(上)』に採録した関連資料の拡大展示とともに上映し、併せて関係する中学校の周年記念誌なども展示して、文字資料に残された事実を具体的に知ることができるようになりました。

一方、教育図書室では、『神奈川県教育史1945~1972 資料編(上)』に採録した学童集団疎開に関する資料の拡大展示とともに、神奈川県下の学童集団疎開の概要を示した解説と、



映像資料の放映等



疎開の対象となった横浜・川崎・横須賀の三市だけでなく、他地域でも教材化できるように、疎開を受け入れた県下の自治体史を紹介しました。

さらに、昨年度の中学校中堅教諭等資質向上研修講座で実施した、『神奈川県教育史』を活用した授業づくりについて、受講者がグループで考えた授業素案をまとめた展示を併設し、「研修と研究の一体化」の一端を紹介しました。

6 教育史資料の充実～周年記念誌の寄贈（1）

県立学校及び市町村の公立学校を対象とする教育資料収集事業において、「周年記念誌」の寄贈をお願いします。今年度は、発刊から年数を経た記念誌を送ってくださった学校もあり、感謝にたえません。9月までに寄贈された記念誌は、松田町立寄小（150周年）・愛川高校（40周年）・相原高校（100周年）・厚木王子高校（開校記念）・大井高校（20周年・30周年）・舞岡高校（50周年）・横浜栄高校（10周年）・横浜翠嵐高校（110周年）・横浜緑ヶ丘高等学校（100周年）・中原支援学校（50周年）です。学校の沿革とその特徴がよく表れている周年記念誌は、教育史編纂上の貴重な情報源です。今後も収集を続けてまいります。

7 座間市立座間小学校教育史料館「いずみ文庫」訪問



11月、教育史担当所員が座間小学校の「いずみ文庫」を訪問しました。同校の創立80周年記念事業として昭和51（1976）年8月に竣工した鉄筋コンクリート平屋建ての史料館で、「耐震耐火防湿完備」（高床式で屋外へ排気、羽目板の側面と、コンクリートの外壁との間に中空を設けて通風を図る）だそうです。

同校の『座間小学校創立八十周年記念誌』（1976年8月）によると、「・・・卒業生及学区内外の市民の方々より、いろいろの意見が起り、それが次第に盛り上がり、なにか市民の心の拠り所となり、在校生の教育にも役だつ有意義なものを将来に向かって残そうということ

に・・・教育資料を収集し、分類・整理・保管して、各時代の考え方、生き方を明らかにし、『いわゆる古きをたずねて心を温め、さらにこれから人生の新しい出発点にしよう』という趣旨だったとのこと。

「いずみ文庫」内部には、当地に校舎を建設した際の「校地賃借契約証」の実物や、幕末期の寺子屋から明治・大正・昭和三代の教科書、教材・教具などが約700点展示されています。

公立小中学校では珍しい単独の建築物である貴重な教育史料展示施設です。ほかにも同様の施設があれば、訪問して紹介したいと思います。



8 教育史資料の充実～周年記念誌の寄贈（2）

「周年記念誌」の寄贈状況について、さらにお知らせします。昨年12月、学校支援班の担当指導主事から三浦市に依頼したところ、すぐに7校（11冊）が集まりました。関係の方々に感謝いたします。リストは次のとおりです。

旭小学校	：創立30周年記念誌（1990年）
上宮田小学校	：創立10・20・30周年記念誌（1984・93・2003年）
剣崎小学校	：創立88・100周年記念誌（1998・2010年）
岬陽小学校	：創立50周年記念誌（2005年）
名向小学校	：創立30・50周年記念誌（1997・2017年）
初声小学校	：創立100周年記念誌・同副読本（1989年）
三崎小学校	：創立150周年記念誌（2020年）

このうち、剣崎小学校はちょうど一年前の令和7（2025）年3月をもって閉校し、南下浦小学校と統合されています。統廃合で貴重な資料が散逸しないように、資料収集に益々力を入れる必要があると感じています。